

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 百年の伝統と実績の上に立ち、グローバル社会において真のリーダーとして世界に貢献できる人物を育成する学校。
- ◎ 基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。
  - ◎ 「チーム住吉」で教職員が一丸となって、国際交流や行事、生活指導を行い、「自主・自律」を体現する生徒を育てる。
  - ◎ 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

## 2 中期的目標

世界に貢献できる人物を育てるため、生徒につけたい力を定め、その実現へ向けた取組みを行う。

## 【5つのつけたい力 (Five Sumiyoshi Qualities)】

- 1 将来を見通せる深い洞察力と世界を見据えた視野の広さ
- 2 異文化を受け入れることのできる包容力と鋭い人権感覚
- 3 理念のみならず、行動に移せる実行力とバランス感覚
- 4 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- 5 科学に対する真摯さと謙虚さ

## 1 学力向上と進路実現

- (1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成
  - ア すべての教科で「つけたい力」と「具体的方策」を明確にし、学校全体で共有し評価する。
  - イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。
  - ウ 3年間を見通した進路指導を着実に実行する。

※ 国公立大学合格者 100 名以上 (R01 57 名、R02 62 名、R03 67 名)

## 2 国際・科学高校としての質的な深化

- (1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化
  - ア 課題研究の内容を深化させる。
  - イ ルーブリック評価によって生徒の思考力、表現力等を向上させる。
- (2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成
  - ア 授業や行事を通じた「使える英語力」をさらに向上させる。
- (3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実
  - ア ①課題研究の質的向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 ④卒業生による「住高支援ネットワーク」を充実させる。
  - イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。

※ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。(R01 92%、R02 94%、R03 93%)

※ 「科学関連、国際理解などの外部講師の話はためになった」90%以上を維持する。(R01 89%、R02 ー%、R03 ー%)

## 3 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

- (1) 人権を尊重する意識の向上
  - ア 人権 HR をさらに充実させるとともに、きめ細かな相談支援体制を確立させる。
- (2) 生徒の自主的な活動の充実
  - ア 自治会活動、部活動をさらに充実させる。
- (3) マナー・規範意識等の育成
  - ア 挨拶・清掃・遅刻指導を徹底する。

※ 学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。(R01 95%、R02 97%、R03 95%)

※ 各行事や取組の生徒満足度 90%以上を維持する。(R01 94%、R02 95%、R03 95%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【教育活動】</b> 「学校生活が充実している(生徒95%、保護者90%)」、「子供が住吉高校に入学してよかった(保護者95%)」、「他の学校にない特色がある(生徒98%、保護者93%)」と高い評価を得た。授業について生徒の肯定的評価は(昨年度88%⇒今年度90%)と増加し、評価についても肯定的評価(昨年度、今年度共に生徒94%)と、高い結果であった。また、「授業でICT機器がよく活用されている(生徒96%)」と言う回答の一方で「1人1台端末を効果的に活用している(生徒75%)」であった。端末の有効活用を促進させたい。</p> <p><b>【学校生活】</b> 「困っていることには真剣に対応してくれる」は93%、「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」が77%と昨年並みの数値であった。「学校の指導は適切である」は生徒93%、保護者93%であり、いずれも昨年度より増加している。生徒に自主的に考えさせる機会を与え、適切な指導に努めたい。「人権について学ぶ機会がある」、「命について学ぶ機会がある」は生徒96%、93%、保護者93%、90%で、ともに90%を超える肯定的意見であった。</p> <p><b>【その他】</b> 「学校の施設・設備は、学習環境面で満足できる」は生徒84%、保護者77%と、他に比べると評価は高いとは言えず、今後も老朽化、設備の維持管理が課題である。「社会貢献活動に関わることは大切だと思う」は生徒の96%が肯定的意見であり、本校がめざす生徒の資質として評価できるものである。</p>	<p>第1回(令和4年6月30日) 「共通テストについて」 ・点数に左右されずに受験するのがよい。数学が課題。「情報」は不透明なところ多し。 「体育祭について」 ・生徒が生き生きとしていて、進行プログラムもよかった。 ・装飾品をつけての競技は危険。→生徒に注意を促している。 「マナー・規範意識について」 ・挨拶はマナーの基本。自立はいいが放任はいけない。根気よく指導・注意してほしい。 ・学校は地元の信頼がないと成り立たない。地元の期待あってこそ住高。 ・校則は大事であるが、線引きが難しい。深く議論してほしい。</p> <p>第2回(令和4年10月27日) 「探究活動について」発表の場があるのはよい。生徒の発表の声がもう少し大きければよかった。探究活動を進路に結び付けることはできないか。探究活動を通して課題解決を。 「頭髪について」社会のルールを守る練習をさせることも大切。それを教えるのが学校。 「定期考査について」頑張り切れない生徒のケアを含めて平均点の底上げを。 「部活動について」強い部活がない。勧誘をする必要あり。技術指導も必要。OBでコーチをしてもらえないか。 「国文と総科について」両学科のつながりを。もっと分掌間でのつながりをもたせてはどうか。</p> <p>第3回(令和5年2月22日) ・頭髪指導について1年間協議した結果の指導方針が出て素晴らしい。「話し合うことによ</p>

	<p>って生徒に考えさせる指導」を実践してほしい。また、勉強や探究活動、運動が苦手な生徒にも目を向けてあげてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学の志願者、中期・後期まで出願している生徒が大幅に増加。学年団を中心とした3年間の進路指導の結果である。</li> <li>・「5つのつきたい力」と3つの中期的目標がどのように関係するのか図式化するとよい。</li> <li>・ウクライナ情勢を授業や行事の中で取り上げたことは？→国連の職員を招いて講演を実施。ディベートでエネルギー問題を取り扱い、ウクライナの紛争による影響に生徒が気づく機会となった。</li> <li>・見える成果を伸ばすと同時に生徒指導、学び、学校とは、などそもそもを深めていくことが大切。</li> </ul>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学力向上と進路実現	<p>(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成</p> <p>ア すべての教科で「つきたい力」と「具体的方策」の明確化</p> <p>イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進</p> <p>ウ 3年間を見通した進路指導</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学習指導 PT が中心となって授業改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導 PT による経験の少ない教員の公開授業を推奨する。</li> </ul> <p>イ・ICT 推進委員会が中心となって1人1台端末の体制を整備し、学習指導 PT と連携して、1人1台端末を活用した公開授業を施す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料のペーパーレス化を進め、業務の効率化を図る。</li> </ul> <p>ウ・進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3年間を見通した進路指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。</li> <li>・模擬試験後、進路指導部と学年団が連携して分析会を実施し、生徒の情報を共有する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・公開授業・研究協議を年間9回以上実施する。[10回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「知識や技能が身に付いた」3.3以上を維持する。[3.4、3.5]</li> </ul> <p>イ・学校教育自己診断「ICT 機器がよく活用されている」95%を維持する。[96%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化の方策を検討する会議を年間5回以上開催する。[5回]</li> <li>また、時間外勤務時間(一人当たり平均)を5%減少させる。[356時間(4月～2月)]</li> </ul> <p>ウ・系統的な進路 HR を5回以上実施する。[5回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学講習を3年生は15講座以上[15講座]、2、1年生は3講座以上[-]実施する。</li> <li>・模擬試験後の分析会を3回以上実施する。[3回]</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・授業力向上チーム「Step Up Labo」を結成。「秋の授業見学週間」を企画し、公開授業を促進し、10回以上実施するも十分に浸透せず。(△)</p> <p>授業アンケートの学校平均は(第1回/第2回)「授業内容に興味・関心を持つことができた」第1回3.35、第2回3.43「知識や技能が身に付いた」第1回3.4、第2回3.48 (○)</p> <p>イ・学校教育自己診断「ICT 機器がよく活用されている」96% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の実施回数は4回であったが、業務効率化方策を検討し、土曜日業務の平準化、会議のペーパーレス化、電話連絡から Web 連絡への変更等、適宜実施。業務効率化を図った。(○)</li> <li>・時間外勤務時間は令和5年2月末まで346時間で昨年同時期の356時間より約3%減。(△)</li> </ul> <p>ウ・3年生対象進学講習受講者は延べ750名程度。共通テスト受験説明会には約240名の生徒が参加。国公立大学合格者は76名と大幅増も目標届かず(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路 HR は今年度6回、講座は3年生27講座、1年生は17講座、2年生は6講座実施。(○)</li> <li>・模試分析会は6回実施。(◎) 次年度は模試の分析会をより充実させたものになりたい。</li> </ul>
2 国際・科学高校としての質的な深化	<p>(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化</p> <p>ア 課題研究の内容の深化</p> <p>イ ループリック評価の普及</p> <p>(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成</p> <p>ア 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上</p> <p>(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実</p> <p>ア 課題研究の質的向上、国際共同研究、「住高支援ネットワーク」の充実</p> <p>イ 平和学習、人権学習の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・探究サイクルを一般教科等に取り入れ、課題解決型の授業を実施する。特に、文系科目(英語、地理歴史、公民、国語等)での実施事例を増やす。</p> <p>イ・SSH の課題研究で用いているループリック評価を普及させるとともに、評価についての研究を進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・暗誦、ディベート等の指導やSE(スーパーイングリッシュ)、SK(スーパーコリアン)等の授業、英語合宿、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・SSC(スーパーサイエンスクラス)をより活性化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「住高支援ネットワーク」をより有効に活用する。</li> </ul> <p>イ・SDGs をテーマとした総合的な探究の時間、ユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・国際文化科1・2年生の総合的な探究の時間で課題研究を実施し、その発表会を年間各学年1回以上実施する。[1回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究サイクルを取り入れた教科の公開授業または事例報告を年間2回以上実施する。[3回]</li> </ul> <p>イ・学校教育自己診断「学習の評価は納得できる」90%以上を維持する。[94%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・1年生で30人以上、2年生で60人以上がCEFR B1以上となるようにする。[1年生20人、2年生62人]</p> <p>(3)</p> <p>ア・国際共同研究を実施し、年間1回成果発表会を実施する。[1回]</p> <p>イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[93%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・総合科学科が9月末に中間発表会を実施し、国際文化科も参加。12月には成果発表会を実施。2月にも外部の学校を招いて研究発表を両学科で実施。合計2回(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究のサイクルを取り入れた公開授業は実施できず。次年度の課題である。(△)</li> </ul> <p>イ・学校教育自己診断「学習の評価は納得できる」94%(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・暗誦、ディベート等の指導、スピーチコンテスト等を実施。英語合宿も実施できるよう準備中。ユネスコの活動にも希望生徒が参加。CEFR B1以上の生徒[1年生32人、2年生43人(△)]</p> <p>(3)</p> <p>ア・「住高支援ネットワーク」を活用し、探究活動の助言を受けている。</p> <p>国際共同研究の成果発表会を2月に実施(○)</p> <p>イ・SDGs をテーマとした1年生の「総合的な探究の時間」の活動は2年めをむかえ、その形式は定着しつつある。</p> <p>学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」93%(○)</p>

## 府立住吉高等学校

<p>3 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成</p>	<p>(1) 人権を尊重する意識の向上 ア 人権HRのさらなる充実ときめ細かな相談支援体制の確立 (2) 生徒の自主的な活動の充実 ア 自治会活動、部活動のさらなる充実 (3) マナー・規範意識等の育成 ア 挨拶・清掃・遅刻指導の徹底</p>	<p>(1) ア・人権教育推進委員会を中心として、人権 HR 及び教職員研修の一層の充実を図る。 ・支援委員会、帰国渡日生を支援する GL(グローバル ライフ)委員会、教育相談会を中心に生徒の支援体制の全校化を引き続き行う。 (2) ア・自治会部を中心に生活指導部、学年団等と連携し、生徒が主体的に行う体育大会、学園祭等の行事やコンテスト等への参加を充実させる。 (3) ア・生活指導部を中心に学年団と連携し、遅刻指導、自転車等のマナー指導、挨拶指導等の徹底を図る。 ・保健部を中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除時の取組みを強化する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[95%] ・学校教育自己診断「担任以外にも相談できる先生がいる」80%以上にする。[77%] (2) ア・学校教育自己診断「学校行事には楽しく参加している」90%以上を維持する。[95%] (3) ア・学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は適切である」85%以上を維持する。[88%]</p>	<p>(1) ア. 人権 HR, 教職員人権研修を予定通り実施中。帰国生や日本語の指導が必要な生徒に対して教育委員会の支援を受けながらサポートをする。(保護者懇談や通訳や日本語の指導など) ・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」96% (○) ・学校教育自己診断「担任以外にも相談できる先生がいる」77% (△) (2) ア. 学校祭も無事終了。総合科学科の生徒による校外での発表会にも積極的に参加している。 学校教育自己診断「学校行事には楽しく参加している」96% (○) (3) ア. 生徒に考える機会を与える指導を心がけている。 ・学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は適切である」93% (○)</p>
---	---	---	---	---